

◎ 美術館情報

最新の情報は、各施設の公式ホームページなどでご確認ください。

1. サントリー美術館【東京・港区】(https://www.suntory.co.jp/sma/exhibition/2024_2/index.html)



4月17日(水)～6月16日(日)

企画展:サントリー美術館コレクション展 名品ときたま迷品
「メイヒン」と聞いてまず思い浮かべるのは、国宝や重要文化財に指定され、その芸術的な価値の高さを誰もが認めるような「名品」ではないでしょうか。しかし「メイヒン」とは、それだけにとどまりません。これまでほとんど注目されず、展覧会にもあまり出品されてこなかった、知られざる「迷品」の

世界もまた、同時に広がっているのです。そしてたとえ「迷品」とされるようなものであっても、少し視点を変えるだけで、強く心を惹かれる可能性を秘めているかもしれません。そうした時、「名品」と「迷品」を分ける明確な基準はないといえるでしょう。そこで本展では、「生活の中の美」を基本理念とするサントリー美術館コレクションの「メイヒン」たちを一堂に会し、さまざまな角度から多彩な魅力をご紹介します。作品にまつわる逸話や意外な一面を知れば、「迷品」が「名品」になることも、「名品」が「迷品」になることも一目の前にある作品がどちらであるのか、それを決めるのは「あなた次第」。自分だけの「メイヒン」をぜひ探してみてください。

2. 国立工芸館【石川・金沢】(<https://www.momat.go.jp/craft-museum/exhibitions/557>)

3月19日(水)～6月2日(日)

企画展:卒寿記念 人間国宝鈴木藏の志野展

日本を代表する陶芸家、鈴木藏(1934～)。荒川豊蔵(1894～1985)に続き二人目の「志野」における重要無形文化財保持者(人間国宝)です。鈴木藏は岐阜県土岐市に生まれ、多治見市市之倉町の丸幸陶苑(まるこうとうえん)に勤務する父の助手として働く中で、本格的にやきものづくりの道へと進むことになります。1966年31歳で独立し、薪窯でしか焼けないとされていた「志野」にガス窯で挑戦し、自然への畏敬の念を重んじ、伝統を大切にしながら独自の作陶スタイルを確立していきます。そして、作品を作るなら「新しくて、力強いもの」という姿勢を崩さず今日まで取り組んできました。本展では、2024年の今年、卒寿を迎えるのを機に、初期から最新作までの作品を一堂に展示します。古典を大切にしながらも、鈴木藏の美意識を映し出した独自性に富んだ作品を展示することで、鈴木藏の軌跡と“今”をご紹介します。



3. 大阪日本民芸館【大阪・吹田】(<https://www.mingeikan-osaka.or.jp/exhibition/special/>)

3月2日(土)～7月16日(火)

企画展:春季特別展 そばちょこ 衣装持ちの器

そば猪口とは、蕎麦のつけ汁を入れる容器として用いられてきた器です。元々は膳の上で料理を盛る向付として使われてきましたが、江戸時代に蕎麦が流行した際に、つけ汁を入れる器として庶民の間へ広く普及していきました。大阪日本民芸館で収蔵するそば猪口の多くは、古伊万里と呼ばれる江戸時代の伊万里焼です。佐賀県の有田を中心に焼かれ、伊万里港から全国へ出荷されたことでこのように呼ばれました。当館が収蔵する古伊万里そば猪口は蒐集家の佐藤禎三氏より1979年に寄贈いただいたコレクションです。本展では3,000点におよぶそば猪口コレクションより、約1,000点をご覧いただきます。小さな器いっぱい描かれた豊かな意匠の世界をこの機会にぜひお楽しみください。

